

高校選抜大会の北海道予選について前野和義委員から観戦記が届きましたので掲載します。前野委員は自分のチームが決勝まで進み本来対戦相手以外のチームを観戦することが困難だっただろうと思いますが、無理を言ってお願いしました。

平成20年度

全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会北海道予選会をふり返って

11月7日(金)～9日(日) 釧路市

北海道バスケットボール協会 強化普及委員会
指導者普及専門委員 前野和義

本年9月に『湿原の風アリーナ釧路』としてオープンした釧路市民待望の総合体育館で本大会が開催されました。素晴らしい湿原の環境の中にさっそうと立つ体育館の姿には来館した役員関係者選手一同が『ウォー』と感嘆する偉容を誇っていました。また館内の施設設備、特に液晶の大型得点板には感動しました。来年のインターハイ北海道予選も昭和57年度以来26年振りの開催であり、今から楽しみにしております。

インターハイ道予選会から引き続き3年生も含めて強化してきたチーム、補強として3年生に手伝ってもらっているチーム、1・2年生に切り替えているチーム、それぞれの思惑で編成されており、戦力的にはかなりの差があるのではと思っていましたが、以外と接戦の多い大会であったと思います。

この選抜大会は優勝チームだけが全国大会への出場権を得るということで、インターハイから国体に向けて更に強化レベルアップしてきた第一シード東海大附属第四高校に全てのチームが挑戦する大会でもありました。

今回は私のチームが初日目より総合体育館での会場であったため、総合体育館の男子を中心に感想を述べさせていただきます。女子については高体連専門委員の遠山先生が後日掲載することになっております。

【1回戦】

※ 駒沢苫小牧高校は新チームとしてのエントリーでした。駒沢は高さがないだけに1ゲームトータルしていかに安定した力を発揮し続けるかが課題であると思います。やはり後半に外のシュートが落ち出し、ディフェンスのバランスが崩れてしまう結果に なったようです。

※ 帯広工業高校は2年生が見学旅行と重なり出場できず残念でした。2年生に良い選手が多いだけに新人戦の活躍を期待しております。

※ 遠軽高校は亀岡先生がコーチとして復帰し、3年生を主体として白樺学園と接戦を 演じたことは大いに評価出来ることと思います。

※ 下川商業高校の宮本先生は素人の生徒を育て上げて初出場を果たしました。何と云っても初出場は嬉しいものです。本当におめでとう御座います。

【2回戦】函大有斗 vs 札幌平岸

春の段階ではまだまだチームとしてのかみ合わせが悪かった有斗も、後藤兄弟を中心としてどこからでも点を取れるチームに仕上げってました。平岸は主力の三年生を残して春の道大会で果たせなかったベスト四を狙っていた大会でもあったと思いますが、残念ながら有斗のオフェンスの機動力に屈したようです。しかし新チームにも良い選手がそろっているので新人戦の奮起を期待しております。

【2回戦】旭川工業高校 vs 恵庭南高校

第1日目最大の注目決戦とまわりから云われましたが、私は組み合わせを見た時から大変なところに入ってしまったと頭を悩ませていました。森河先生も同じだったと思います。恵庭南の主力は二年生ですが素晴らしい技術と能力を持っています。今大会は⑫古里の欠場もあり戦況に大きく左右したことと思いますが、スタートのゲームの入り方が全てであったようです。恵南は外の選手 の力も相当あるので、今後はセンター⑧栃本の安定したプレーが身に付くことにより相当なチームに仕上がるものと思います。結果的には20点差という大差でありましたが、全く互角の試合ではなかったかと思います。新人戦では全道のトップを狙える力は十分にあると思います。健闘を祈っています。

※ 海星学園高校は不安定なゲーム運びをした旭川西高の隙をついて3点差まで追い上げたことは大いに評価出来ると思います。

※ 北広島高校は1・2年生チームではありましたが経験豊かなセンターの⑥中居を軸として外回りも得点力がありバランスの良い布陣であったと思います。夏のチームとはひと味違うチーム作りを期待しております。何と云っても何時もベンチで大声を出して頑張る内海コーチは好感がもてます。

【3回戦】大麻高校 vs 旭川西高校

インアウト共にシュートが入らない大麻に対して、旭川西は確率の高いシュートを決め前半は旭川西のペースで試合が運ばれましたが、後半スタートに大麻は思い切ってディフェンスをマンツーマンフルコートでプレスをかけ旭川

西の勢いを止めてしまったことが勝因になったと思います。また、旭川西のオフenseリズムが最後まで大麻と同じテンポでラリーをしていたので、何回か攻撃のリズムを変えてみるのも必要であったのではないかと思います。旭川西は2年生主体だけにこれからが楽しみです。

※ 密かに富士コーチが率いる市立函館高校1・2年生チームもどんな戦いをするか楽しみでもありました。まだまだ荒削りですが素晴らしいメンバーを有しています。今後の活躍を楽しみにしております。

【準決勝】旭川工業高校 vs 白樺学園高校

なかなか決心がつかなかったスタートの入り方でしたが決勝までは使わないつもりでいたゾーンを採用することにしました。前夜にウイルス性の胃腸炎による感染にてスタートメンバーの大半が腹痛と嘔吐の状況で、一人は出場不可能ということでありゾーンディフェンスでの対応にしました。白樺も予想通りゾーンディフェンスでしたが、インターハイ道予選では大麻と恵南にゾーンでしっかりいじめられた経験があり、今回はかなりの時間をゾーンオフenseに費やしました。

この試合も不安もなく中と外の連携も上手くでき、ディフェンスをしっかりと崩して打てたように思います。機動力のある白樺打線を3クォーターにインサイドのディフェンスをマッチアップさせて外と中を分断したのが成功してゲームを決めることが出来ました。⑱3年生野宮選手は昨シーズン骨折で辛い期間があったようですが、今回は素晴らしい動きをしていました。インサイドのタイミングの合わせ方は絶妙なものがあり、3年生としてチームを良く引っ張っていました。白樺も2年生が主体となる素晴らしい力を持ったチームです。宮下コーチの奮闘を期待しています。

※ 東海大四 vs 大麻の対決は同一時間帯のゲームであったため観戦できませんでした。

【男子決勝戦 東海大附属大四高校 vs 旭川工業高校】

春のインターハイ道予選決勝リーグで8点差、国体道予選決勝では18点差の大敗、三度目の対決はどうなるか。お互いに手の内を知り尽くしているだけに面白いゲームになると予想していた通りの接戦となりました。

旭工はスタートからゴールに積極的に飛び込むゲリラ戦法で立ち向かったのに対して、東海は旭工のゾーンディフェンスをセンター⑦増田にボールを集めて落ち着いてさばいてました。1クォーターは全く互角（旭工5点リード）。2クォーターに入り東海の⑮西川の良い位置取りからのショットが決まる。また旭工のドライブインが封じ込まれ、3pの確率が悪くなり東海の流で前半終了（東海8点リード）。

3クォーターに旭工トライアングル2が成功して追いつくが、そこから旭工の脚が止まり合わせのレイアップシュートもこぼれ出す。ポストの⑦増田にヘルプに寄る分ハイポストの⑮西川にタイミング良いジャンプシュートを打たれる。（東海5点リード）4クォーター旭工がボックス1でオフenseのリズ

ムを崩させ混戦に持ち込むが、東海は簡単にシュートを作ることが出来るのに対して、旭工は、精一杯動いてのシュートチャンスであり、残り3分で④吹上がルーズボールを追い、観客席に飛び込み負傷交代する。手当がすんで残1分でコートに戻るが、残25秒ドライブから3pパスを狙いに行くドリブルの突き出しが痛恨のトラベリングで東海ボール、東海はそこでまさかのスローインミスで旭工ボール、東海タイムアウト。残12秒、当然3pエリアを激しくディフェンスをしてくるのでドリブルからのハンドオフ（手渡しパス）で3pを打っていく作戦であったが、怪我で動揺をしていた④吹上が判断を誤ったようで、まさかのレイアップショットでゲームセットでありました。

追い上げられながらも冷静にプレーをし、しっかり崩して点を取っていった東海のチームが一枚上であり、特にあの状況の中、つなぎで出場してきた東海⑩の村井の落ち着いたプレーが印象的でした。しかし全国での戦いになるとインサイドで点を取ることは難しくなるので、今後更なるアウトサイドのシュート力の向上とチームディフェンスの強化が必要と思います。特に⑮西川にはオフenseエリアをもっと広げどこからでも点を取れる選手になってもらいたいと思います。今後の成長を楽しみにしています。

また旭工は3pの確率があまりにも悪かった（26%）。小さいチームが決めるべき3pを外しては勝てない。しかし、練習をしてきたトライアングルオフenseをベースにしてのインサイドの合わせ、リバースカット、ハンドオフからのドライブ、ピックエンドロール、そしてディフェンスは一人で二人を守り、床に近いプレーは負けない。リバウンドボールは全員3秒エリアで跳び続ける等ゲームの中で沢山表現できたようです。スタートの平均身長174cmと180cm不在のチームでしたが、最終日2試合を5人だけで乗り切った強い精神力での準優勝は大いに評価できると思います。

今大会の開催におきまして、オフィシャルとしての地元高校の選手の皆さん、釧路地区協会の役員の皆様、そして審判の方々には大変お世話になりました。素晴らしい体育館と多くの観衆の前でプレーできたことに心から感謝を申し上げます。

またここまで3年生を指導し、チームの柱として育て上げてきた各チームのコーチの先生方は本当に大変であったかと思えます。そして選手諸君も6月の支部・全道大会が終了してから、この11月までの選手生活を継続してきた努力にたいして大いに賞賛します。お疲れ様でした。

最後になりますが、東海大四高校のウィンターカップでの活躍と健闘を心より祈りまして大会の感想に代えさせていただきます。